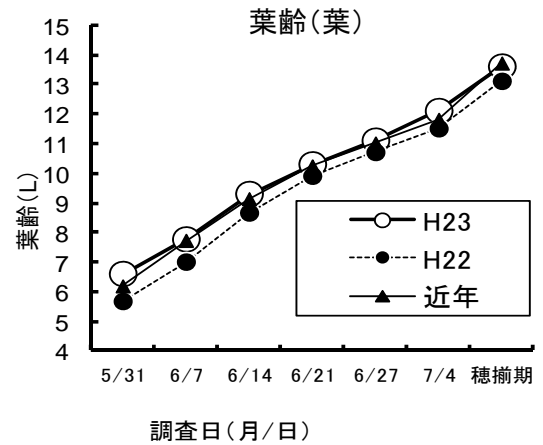
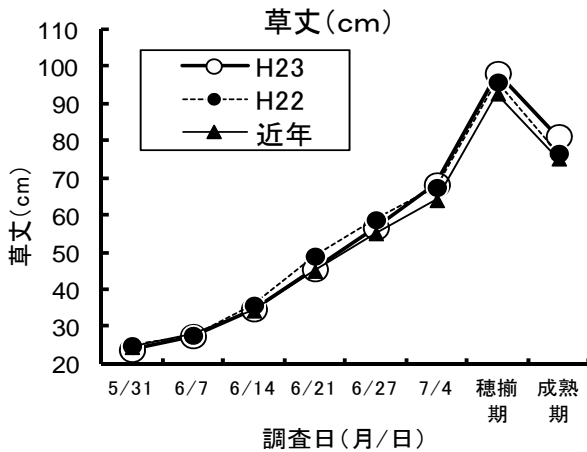
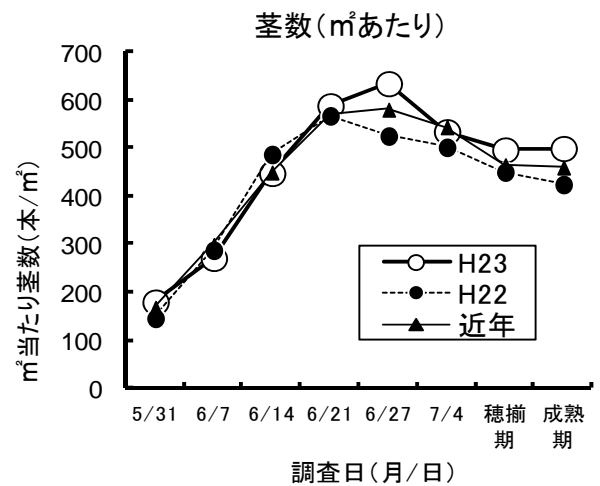
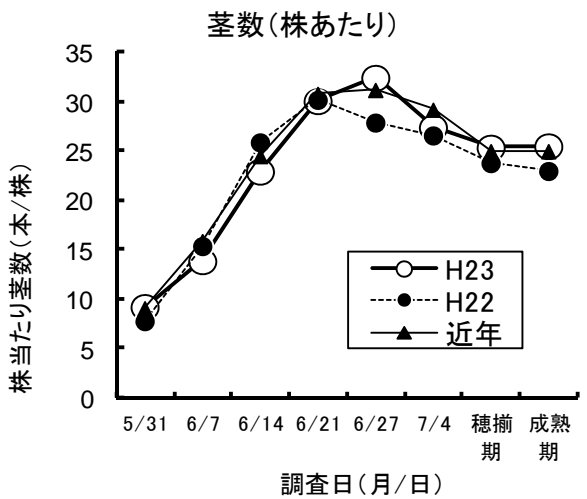


# 1.JA 高岡管内調査ほの生育経過

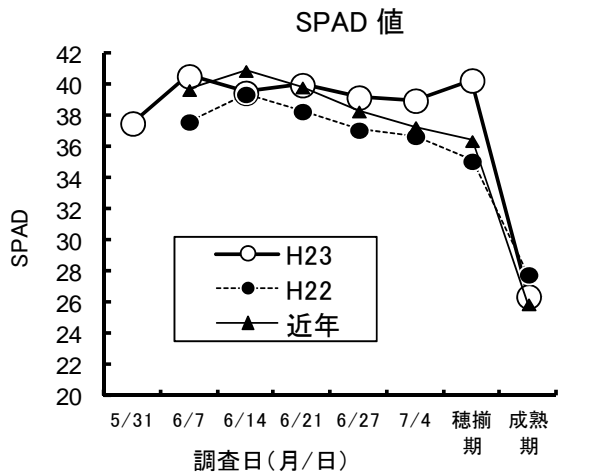
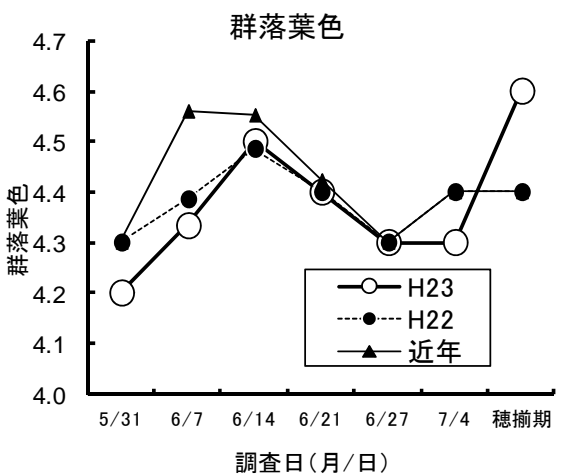
## (1) てんたかく



・初期は近年並みに推移したが、6月下旬から7月上旬にかけて急激に伸長し、稈長は近年より長くなった。

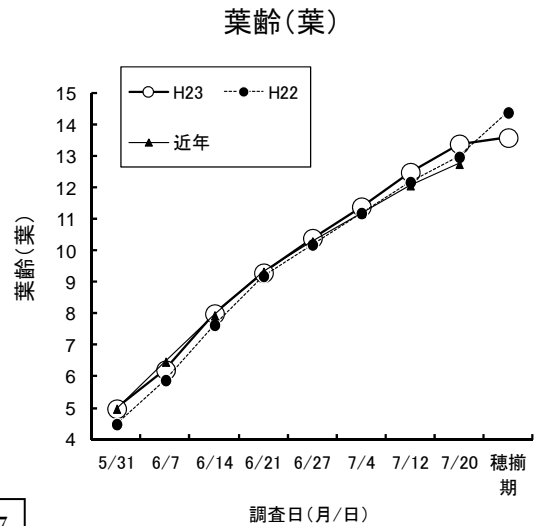
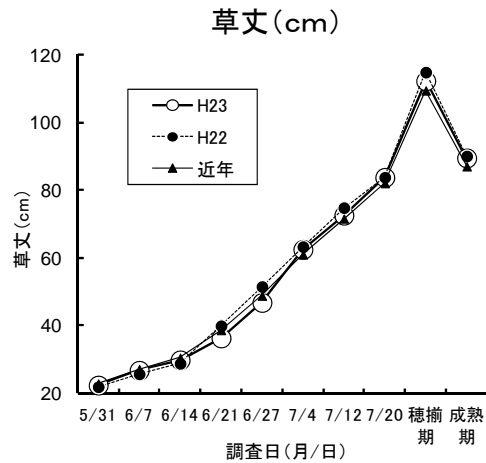


5月下旬から6月中旬は近年より少なめに推移したが、6月下旬にかけて急激に増加し、最高茎数は近年より多くなった。6/27から7/4にかけて急激に減少したが、その後の減少は緩やかで、穂数は近年より多く、目標数(450~500本/㎡)を確保できた。

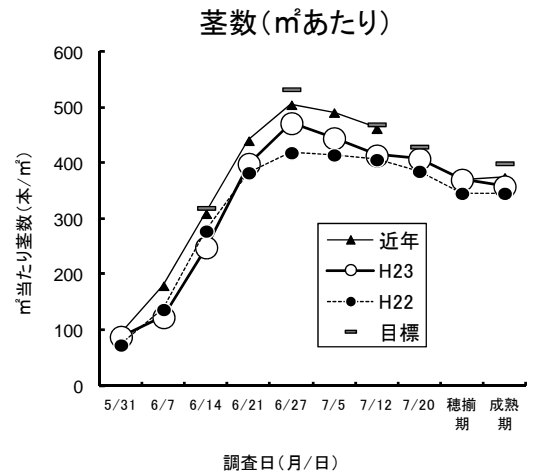
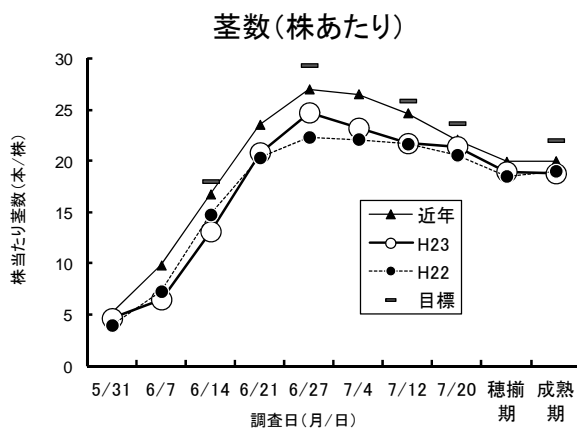


穂揃期の葉色は近年より濃かったが、成熟期にかけて急激に低下し、成熟期の葉色は昨年より低く近年と同程度であった。

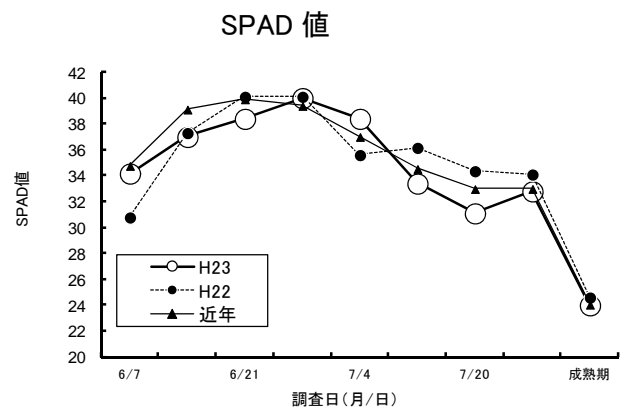
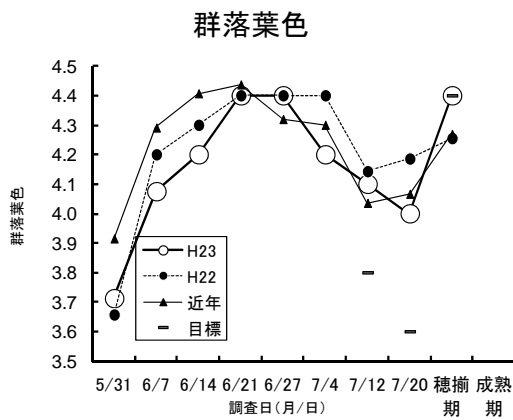
## (2)コシヒカリ



・初期は近年並みに推移したが、6月下旬から7月上旬にかけて急激に伸長し、稈長は近年より長くなった。



・5月～6月にかけて近年、昨年よりも少なく推移したが、6月下旬から急激に増加し、昨年よりも最高茎数は多くなった。しかし、目標の茎数には達せず、穂数も少なくなった。  
 ・栽植株数が確保されたため、m<sup>2</sup>あたりの茎数・穂数は昨年よりも多く、目標との差も縮まっていた。



・葉色は淡目に推移したが、穂揃期では目標の葉色を確保できた。  
 ・近年、幼穂形成期頃の葉色が目標より高くなっている。

## 2.JA 高岡管内調査ほの品質・収量

### (1) てんたかく

表1. てんたかく調査ほの生育期・収量構成要素・外観品質

地区名	生育ステージ			収量構成要素						外観品質(目視)			
	田植日	出穂期	成熟期	穂数 (本/㎡)	1穂粒数 (粒/穂)	㎡粒数 (粒/㎡)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	坪刈収量 (kg/10a)	整粒 (%)	基・背白 (%)	乳・心白 (%)	青未 (%)
野村	5/3	7/20	8/28	506	57.9	29,277	68.0	22.9	528	87.7	2.0	1.7	2.0
中田	5/4	7/25	8/30	518	68.0	35,201	67.8	23.1	754	80.3	0.7	4.7	7.3
醍醐	5/4	7/20	8/28	472	68.3	32,276	78.0	23.3	599	84.5	2.5	5.0	2.0
<b>平均</b>	<b>5/3</b>	<b>7/21</b>	<b>8/28</b>	<b>499</b>	<b>64.7</b>	<b>32,251</b>	<b>71.3</b>	<b>23.1</b>	<b>627</b>	<b>84.2</b>	<b>1.7</b>	<b>3.8</b>	<b>3.8</b>
H22	-	7/21	8/24	424	63.3	26,844	80.7	22.2	465	81.7	4.3	4.5	0.2
近年	-	7/24	8/30	460	66.7	30,641	83.3	22.2	580	84.3	4.3	2.3	2.0
目標値	-	-	-	450 ~ 500	60 ~ 65	28,000 ~ 30,000	85 ~ 90	22.0	560	80	-	-	-

注)近年はH17-H22の平均

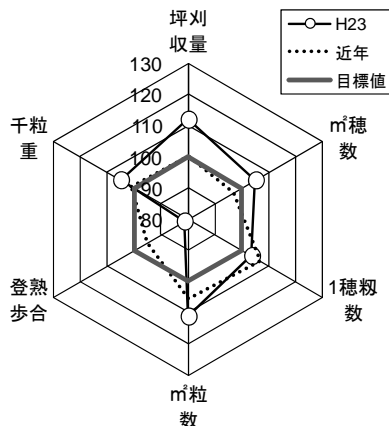


図1. 収量構成要素の年次比較(てんたかく)

- ・ 出穂期は近年より3日早い7/21、成熟期は近年より2日早い8/28となった。
- ・ 穂数は平均499本/㎡と目標を確保できた。登熟歩合は平均71.3%と低かったが、千粒重は大きくなった。
- ・ 1穂粒数を確保できたほ場では多収となったが(坪刈り収量599、754kg/10a)、1穂粒数が少なかったほ場ではやや低収となった(528kg/10a)。
- ・ 整粒割合が平均84.2%と外観品質は良好であった。着粒数が多かったほ場では青未熟粒の発生が多かった。

### (2) コシヒカリ

表2. コシヒカリ調査ほの生育期・収量構成要素・外観品質

地区名	生育ステージ			収量構成要素						外観品質(目視)		
	田植日	出穂期	成熟期	穂数 (本/㎡)	1穂粒数 (粒/穂)	㎡粒数 (粒/㎡)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	坪刈収量 (kg/10a)	整粒 (%)	基・背白 (%)	乳・心白 (%)
二塚	5/13	8/5	9/12	327	87.5	28,641	86.1	23.3	565	71.8	13.9	5.7
東部	5/17	8/8	9/18	362	93.6	33,915	74.0	23.6	595	78.2	9.3	5.1
二上	5/15	8/5	9/14	351	87.0	30,560	82.0	23.3	588	70.6	8.5	10.7
国吉	5/13	8/5	9/14	394	86.0	33,869	84.3	23.1	718	66.0	10.1	13.3
小勢	5/7	8/3	9/11	392	83.9	32,862	83.3	23.9	650	68.5	14.8	5.0
牧野	5/14	8/4	9/8	318	77.3	24,616	84.9	23.4	530	78.7	8.0	2.3
中田	5/16	8/5	9/14	370	66.7	24,679	86.3	22.2	502	74.0	13.6	2.5
醍醐	5/13	8/4	9/13	353	77.5	27,354	89.3	23.3	584	69.3	12.0	6.3
<b>平均</b>	<b>5/13</b>	<b>8/5</b>	<b>9/13</b>	<b>358</b>	<b>82.4</b>	<b>29,552</b>	<b>83.8</b>	<b>23.3</b>	<b>592</b>	<b>72.1</b>	<b>11.3</b>	<b>6.3</b>
H22	-	8/6	9/10	346	86.3	29,858	82.2	22.2	540	63.8	16.2	10.8
近年	-	8/7	9/14	375	78.6	29,444	85.1	22.7	547	72.5	13.6	2.6
目標値	-	-	-	400	70	28,000	87	22.5	548	80		

注)近年はH17-H22の平均

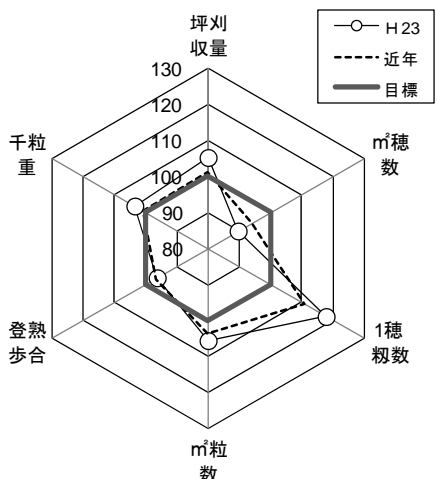


図2. 収量構成要素の年次比較(コシヒカリ)

- ・ 出穂期は近年より2日早い8/5、成熟期は近年より1日早い9/13となった。
- ・ 穂数は平均で358本と目標よりかなり少なくなったが、1穂粒数が82.4粒/穂と過剰で、㎡あたりの着粒数は29,552粒と目標より多くなった。
- ・ 千粒重が大きく、坪刈収量は平均592kg/10aと多収であった。
- ・ 乳・心白粒の発生が近年より多く、基・背白粒の発生も近年並に多かった。整粒割合は昨年より高く近年並みとなったが、目標の80%を下回った。

### 3.JA 高岡管内の検査概況

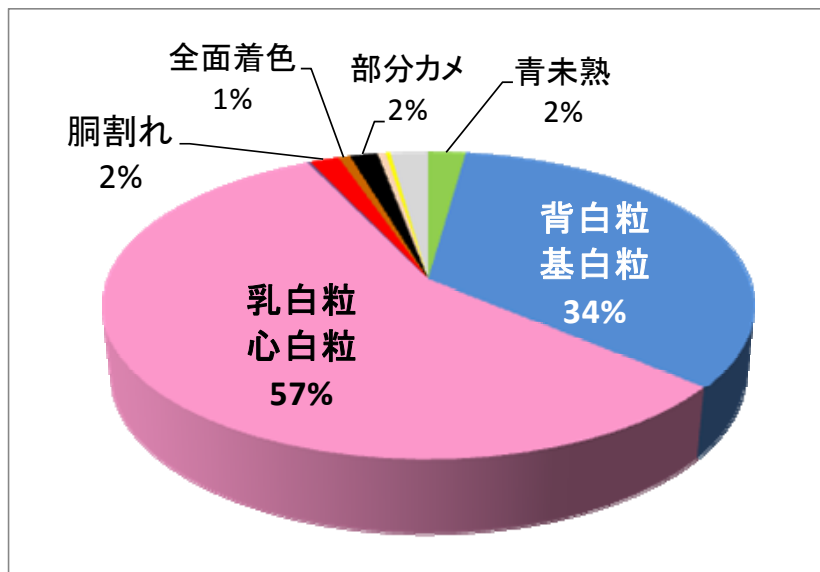
#### (1) 1等比率

表 3. 品種別の 1 等比率

品種	1 等比率(%)	H22
てんたかく	90.4	92.6
コシヒカリ	71.3	61.6
てんこもり	84.5	81.3

・てんたかく、てんこもりは品質が良かった。  
 ・コシヒカリは昨年より向上したものの、目標の 90%に届かなかった。

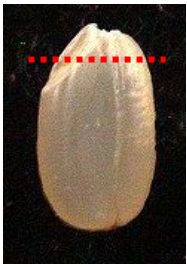


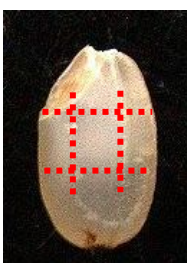
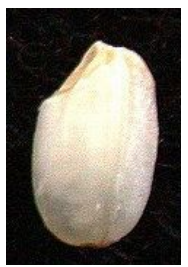
#### (2) コシヒカリ格下げ要因



※検査上の項目は、  
 背・基白粒→「除青未熟」  
 乳・心白粒→「心白粒」

図 3. コシヒカリの格落ち要因割合

#### (3) 白未熟粒の種類と 発生要因

	基白粒	背白粒	腹白粒	心白粒	乳白粒
					
気象要因	登熟期間の高温	登熟期間の高温		登熟初期の高温	登熟中期の高温
栽培的要因	栄養凋落	栄養凋落	登熟後半の倒伏		着粒数過多や倒伏
判定基準	胚の 1/2 以上が白濁、かつ基部が細くなったり、ねじれたり変形している粒。	背側部に粒長いっぱい、粒幅 1/4 以上の白濁部がある粒。	粒長の 2/3 以上、かつ粒幅の 1/3 以上の白濁部がある粒。無胚粒も含む。	粒の中心部に粒長の 1/3 以上、かつ粒幅の 1/3 以上の白濁部がある粒。	白濁部が粒平面の 1/2 以上の粒。死米と異なり、粒に光沢がある。